



2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社コンヴァノ
代表者名 代表取締役社長 上四元 絢
(コード：6574 東証グロース)
問合せ先 執行役員 藤本 光
(TEL：03 (3770) 1190 (代表))

暗号資産に係る会計方針（初度認識後の測定モデル）の選定に関するお知らせ

当社は、暗号資産の会計方針（測定モデル）について、国際会計基準第38号「無形資産」（以下、「IAS 38」といいます。）に基づく原価モデルを2025年度第2四半期より採用し、当期内は一貫適用することを決定しました。

原価モデルは、IAS 38 における初度認識後の測定であり、保有中の価格上昇は評価益として計上せず、帳簿価額は取得原価（減損控除後）で測定します。減損は、「減損の兆候がある場合」又は「少なくとも年1回の減損テスト」において回収可能価額が帳簿価額を下回るときに認識します。売却時は、受領対価と帳簿価額の差額を損益に認識します。

記

1. 背景

当社は2025年10月7日付「シン・コンヴァノ 21,000 ビットコイン財務補完計画」策定のお知らせにて、暗号資産の売却を含む運用方針への戦略変更をお知らせいたしました。これを踏まえ、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、「IAS 34」といいます。）の趣旨である「期中においても年次と同一の会計方針を適用し、比較可能性を確保すること」を重視し、当該クラスに適用する初度認識後の測定モデルを最終選定したものです。なお、これまでの適時開示では「再評価モデルを前提に監査法人と協議中」として検討状況をお知らせしておりましたが、本件にて会計方針の最終決定をご通知いたします。

2. 決定内容

（1）測定モデル

IAS 38に基づく原価モデルを「暗号資産」クラスに適用し、当期内は一貫適用します。

（2）減損

当該資産は耐用年数の定めのない無形資産として取り扱い、少なくとも年1回の減損テストを実施します。減損の兆候がある場合は期中でも速やかにテストを行い、回収可能価額に基づき減損損失を損益に認識します。

（3）処分時の損益認識・表示

売却時には、受領対価から帳簿価額を差し引いた純額を損益に認識します。なお、損益の表示区分については、現在監査法人と協議を行っております。

(4) その他の包括利益(以下「OCI」といいます。)に関する取扱い(再評価モデルとの差異)

原価モデルの採用により、OCIの計上は生じません。したがって、処分時のOCIリサイクリングも発生しません。

(5) 適用範囲

当社は「暗号資産」を無形資産の独立したクラスとして定義し、当社が保有する暗号資産全般に対し、本方針を一貫適用します(他の無形資産クラスには影響しません)。

3. 採用理由

IAS 34「期中財務報告」において、期中財務報告においても年次と同一の会計方針を適用することは、投資家の比較可能性を確保することを趣旨としております。当社は、当初第2四半期の実態(売却を予定せず、再評価モデルが相対的に適合)も踏まえつつ、10月以降は売却を行う方針に戦略を変更し実績も生じたため、投資家が第2四半期から第3四半期へ連続的に比較できるよう、第2四半期時点で原価モデルを選定し、当期内は一貫適用することとしました。これにより、第3四半期に会計方針の変更(遡及再表示等)を生じさせることなく、実現損益を損益計算書に明瞭に反映し、投資家の理解可能性を高めます。

4. 今後の見通し

本方針は当第2四半期の初度認識から適用しており、会計方針の変更による遡及修正は生じません。業績への定量影響は、売却損益及び減損損失として損益計算書に反映されます。なお、具体的金額は四半期決算にて開示します。当社は引き続き、暗号資産の取得・運用状況について適時適切に開示してまいります。

以上